

栗東市立治田保育園サービス評価結果(30年度)

評価基準	評価項目ごとの 評価結果	総合所見		
		園の特徴、特色など評価できる事項	今後取り組むべき検討課題等	
I. 子どもの発達援助				
1 発達援助の基本		栗東市の管理全体計画を受けて、保護者の園評価、地域の園評議会の結果などから実態とその思いを把握して、全体的な計画を作成している。これを基に、各年齢の年間指導計画、月間計画、週・日の計画を作成し、日誌には反省・評価項目を詳しく記載して次の週・日の計画に活かしている。児童票に個々の園児の状況・目標を記載し、園内委員会で職員間の共有、保護者との懇談で共に共有・連携して日々の保育に活かしている。		
(1) 保育課程が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	Ⓐ b c			
(2) 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	Ⓐ b c			
(3) 一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	Ⓐ b c			
(4) 一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもの関係する全職員に周知されている。	Ⓐ b c			
(5) 一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	Ⓐ b c			
2 健康管理・食事		保健業務マニュアルを基に、登園時、保育中の園児の顔色や皮膚など詳細なチェックをに対応している。	年度当初だけでなく、見本の開示を検討して欲しい。	
(6) 登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、一人一人の子どもの健康状態に応じて実施している。	Ⓐ b c	年間健康保健計画に則り定期的な身体検査、検尿、視聴力検査、内科・歯科検診を実施している。		
(7) 健康診断(歯科を含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	Ⓐ b c	感染症発生時には保護者へ素早い連絡をし、アタマジラミや結膜炎発生時、看護師が頭髪・眼球のチェックをしている。アレルギー対応食は、医師の診断と保護者の同意を基に、調理から配膳まで保育士も含めて対応し、特定容器に盛り付け、喫食時は保育士が側で見守っている。アレルギー疾患用薬は登園児保護者から受け取りノートに印を押す等対応している。		
(8) 感染症への対策については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	Ⓐ b c	月間献立表を保護者に配布連絡し、保育の年度当初に写真で量や内容も知らせている。		
(9) 専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	Ⓐ b c			
(10) 日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	Ⓐ b c			
(11) 衛生面に配慮しながら、食事を楽しむことができる工夫をしている。	Ⓐ b c	栗東市立学校給食共同調理場が調理配食し、園の給食室で園児の状況に合わせて再調理している。		戸外で食事をする機会を増やしてもらいたい。 給食の具体的内容(写真など)の掲示の頻度を高めることを工夫して欲しい。 食育のためにも基礎食品群の3色食品群のパネル等が欲しい。
ア 食事をする部屋としての雰囲気作りに配慮している。	○	個々の園児の自己申告もあり、保育士がそれに応じて盛り付け、完食した子はお替りをして、笑顔と会話で楽しく食べている。		
イ 食器の材質や形などに配慮している。	○	弁当持参時には園庭で、バス遠足では外気のもとで食事を楽しんでいるが、その機会が少ない。		
ウ 個人差や食欲に応じて、加減するように工夫している。	○	ミニトマトやピーマンなど多種を育てクッキングでピザなどに使用して調理と喫食を楽しんでいる。		
エ 残さず食べることや偏食を直すことに対する指導にあたっては、強制したり叱るなどの行き過ぎがない。	○	給食当番が給食室から保育室まで運搬し、配膳を手伝っている。		
オ 子どもが落ち着いて食事を楽しめるように工夫している。	○	おやつは給食室で手作りを心がけており、2歳児が給食室まで「ごちそうさま」の挨拶に出かけている。		
カ 時には戸外で食べるなど、様々な食事のスタイルの工夫がある。	○	毎月献立表を保護者に示しているが、サンプル展示や写真での掲示は年度当初以外には行われていない。共同調理場での調理であり園児たちは日常の調理の実際を見ることはできないが、年・月毎の食育計画を作成し食への関心を高めるように努めている。		
キ おやつは、手作りを心がけている。	○			
ク 旬のものや季節感のある食材やメニューを取り入れている。	○			
ケ 嗜好や喫食状況に基づき食事内容を改善している。	○			
コ 子どもが育てた野菜などを料理して食べることがある。	○			
サ 子どもが配膳や後片付けなどに参加できるよう配慮している。	○			
シ 調理作業をしている場面を子どもが見たり、言葉を交わしたりできるような工夫を行っている。				

3 保育環境		乳児のトイレがきれいで体格に適したように改装されている。トイレや洗面所はこまめに清掃されているが、雨天時は不快なおおいが感じられる。	温湿度計の早急の更新をお願いしたい。
(12) 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	(a) b c	トイレや洗面所はこまめに清掃されているが、雨天時は不快なおおいが感じられる。	温湿度計の早急の更新をお願いしたい。
ア 採光に配慮している。	<input type="radio"/>	砂場は職員が毎月掘り起こし、業者による消毒は年1回実施し砂の補充をしている。 寝具は保護者が週末に持ち帰り、日光干しや洗濯をしている。 アタマジラミのいる園児は午睡時に布団を離して敷いたり、カバーやシーツ類を保護者が毎日持ち帰り洗濯し、午睡後には部屋を丁寧に掃除するなど細やかな対策をしている。 一部保育室の温湿度計が故障している。	保護者は不審者対策への不安をいだいている。その不安を減らす工夫・検討をして欲しい。
イ 換気に配慮している。	<input type="radio"/>		延長保育の子が多く利用するため、最終または早朝のトイレ掃除も工夫して欲しい。
ウ 各部屋に温湿度計などがあり、温度・湿度に配慮している。	<input type="radio"/>		
エ 手洗い場、トイレは、保育中に時折り清掃し、不快なおおいがないようにしている。	<input type="radio"/>		
オ 寝具の消毒や乾燥を定期的に行っている。	<input type="radio"/>		
カ 屋外の砂場や遊具の衛生面に配慮している。	<input type="radio"/>		
(13) 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	(a) b c	食事前には手洗い、うがいをし、昼寝の時はパジャマに着替え合間で遊戯室で寝ている。静かに移動し昼寝を行うという行動が自然な形で生活の一部になっている。 2歳児以上は遊戯室で0、1歳児は各保育室で午睡し、5歳児のお昼寝当番が幼児をとんとんして眠れるように手伝いをしている。砂場を備えた園庭で毎日の朝の体操、運動会の練習・本番を楽しみ、園外活動やバス遠足も楽しんでいる。 ベビーカーでの散歩や散歩車での散歩も楽しんでいる。 夏の花火を描いた作品を飾る等して季節を感じるように努めている。	園庭の手洗い場などひび割れ、廊下の備品棚の保持、屋根敷の剥がれなどの対応で、より一層の安全・安心対策に努めて欲しい。
ア 子どもが不安になったりした時などにいつでも応じられるように、保育士が身近にいる。	<input type="radio"/>		
イ 一人一人の子どもがくつろいだり落ち着ける空間がある。	<input type="radio"/>		
ウ 眠くなった時に安心して眠ることができる空間がある。	<input type="radio"/>		
エ 食事のための環境が整えられている。	<input type="radio"/>		
オ 季節にあわせてインテリアが工夫されている。	<input type="radio"/>		
カ 配色に配慮した保育室となっている。	<input type="radio"/>		
キ 音楽や保育士の声など、音に配慮している。	<input type="radio"/>		
ク 屋外での活動の場が確保されている。	<input type="radio"/>		
4 保育内容			
(14) 一人一人の子どもへの理解を深め、受容しようと努めている。	(a) b c	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
ア 子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、おだやかに話している。	<input type="radio"/>	子どもが泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
イ 「早くしなさい」とせかす言葉や、「だめ」「いけません」など制止する言葉を用いないようにしている。	<input type="radio"/>	子どもが泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
ウ 子どもの質問に対して、「待ってて」「あとで」などと言わずに、なるべくその場で対応をしている。	<input type="radio"/>	子どもが泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
エ 「できない」「やって」などといってくる子どもに対して、その都度気持ちを受け止めて対応している。	<input type="radio"/>	子どもが泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
オ 「いや」などと駄々をこねたり、自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。	<input type="radio"/>	子どもが泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
カ 登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりして。	<input type="radio"/>	子どもが泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
(15) 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子ども状況に応じて対応している。	(a) b c	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
ア トイレに行くことをせかしたり、強制したりせずに、一人一人のリズムに合わせるようにしている。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
イ おもらしをしたときに、その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないように配慮している。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
ウ 衣服の着脱に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
エ 子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫がみられる。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
オ 休息時には、子守歌を歌ったり、背中を軽くたたくなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
カ 休息時間以外でも、一人一人の状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませるようにさせたりしている。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
キ 休息時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
(15) 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子ども状況に応じて対応している。	(a) b c	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
ア トイレに行くことをせかしたり、強制したりせずに、一人一人のリズムに合わせるようにしている。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
イ おもらしをしたときに、その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないように配慮している。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
ウ 衣服の着脱に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
エ 子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫がみられる。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
オ 休息時には、子守歌を歌ったり、背中を軽くたたくなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
カ 休息時間以外でも、一人一人の状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませるようにさせたりしている。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	
キ 休息時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。	<input type="radio"/>	泣いたりぐずったりする園児には、優しく抱っこして落ち着くのを辛抱強く待っている。 元気な園児が多くケンカやトラブルもあるが、保育士は視線を同じにして子どもの思いを聞き、教示・助言して双方の納得を得る解決に導いている。 叱る時はそっと、ほめる時は大きな声で保育している。	

(16) 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	a	㉑	c	行動予定の時間の示し方として、時計に約束の時間に色テープをつけ、どの子にも理解しやすくしている。 マラカス、積み木、鈴、ブロック、トランプ、オセロなど年齢に応じてそれぞれが思い思いの遊びを楽しんでいる。 玩具の少なさや古さが見られる。	扱いやすい楽器が自由に使えるような工夫を期待したい。
ア 子どもが発達段階に即した玩具や遊具が用意されている。					
イ 子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。		○			
ウ 好きな遊びができるコーナーが用意されている。		○			もっと自由に遊べる時間を増やして欲しい。
エ 子どもが自由に遊べる時間が確保されている。					
(17) 身近な自然や社会と関わられるような取り組みがされている。	㉑	b	c	玄関や各保育室に鉢植の草花を多数育てている。常時飼育はしていないが、散歩などで捕まえた昆虫やかえるなどを一時飼育した後、元に戻して命の大切さを知るように保育している。 バケツでの水稻栽培、オクラ、ミニトマト、なすびを栽培しクッキングでピザやカレーに利用して楽しんでいる。 散歩中、地域の方とよく会話し、畑を訪れ栽培の話聞き、虫採りしている。	公共交通機関を利用して社会の仕組みや状態に触れる機会を設けて欲しい。
ア 子どもが身近に動植物に接する機会をつくっている。		○			
イ 園庭や散歩で拾ってきた葉や木の実など、季節感のある素材を活用している。		○			
ウ 散歩などで地域の人たちに接する機会をつくっている。		○			
エ 地域の行事に参加したり、公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会を作っている。					
(18) 地域の自然環境に親しみ、守り育てる取り組みがされている。	a	㉑	c	どんぐりまつり(バザーやリサイクル)で共に楽しんでいる。牛乳パック、プラカップ、不用毛糸や木片などを工作利用している。 保育室で、花や植物を栽培している。 地域の畑での栽培への親しみや虫採りしている。 自然環境を守り育てる取り組みで、保育士の研修が無く、保護者会の協力も得られていない。	自然環境を守る意識を持ちにくい環境でもあるが、職員の研修不足、保護者会の協力の少なさを改善して欲しい。
ア 自然環境を守り育てる取り組みが計画されている。		○			
イ 職員に自然環境を守り育てる研修の機会を提供している。					
ウ 自然環境を守り育てる取り組みを保育の中で実践している(身近な素材の再利用、ごみの分別、清掃活動など)		○			
エ 保護者や地域と共に、自然環境を守り育てる取り組みをしている。					
(19) さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	㉑	b	c	鍵盤ハーモニカ、マラカス(乳児)など楽器を使った保育がなされているが、楽器の種類と楽しむ時間が少ない。 塗り絵、自画像、花火の絵など園児の作品を飾っている。 サッカー教室、毎日の朝の体操、運動会での組体操と年齢に応じた表現を楽しんでいる。朝の体操は異年齢とのかかわりもあり、保育士・園児にとっても共に学べる場となっている。 絵本読み聞かせ時の園児の真剣な眼差しが印象深い。	園児が音楽にもっと親しめるように、自由に遊べる楽器を増やして欲しい。
ア 子どもが自由に歌ったり、踊ったりできる場面がみられる。		○			
イ さまざまな楽器が楽しめるようになっている。					
ウ クレヨン・絵具・粘土・紙など、さまざまな素材を子どもたちが自分で使えるように用意されている。		○			
エ 子どもの作品が保育に活かされたり、工夫して飾られたりするなど、大切に扱われている。		○			
オ 身体を使った様々な表現遊びが取り入れられている。		○			
カ 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。		○			
(20) 遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	㉑	b	c	のびのび過ごしているためか喧嘩やトラブルも見られるが、保育士の丁寧な傾聴と助言で双方納得して和解している。朝の体操での以上児と未満児のペアによる動きなど日ごろから思いやりの育成に努めている。給食当番、おやつ当番、けいじばん当番、おちょうめん当番などを各グループが順番に担い頑張って努めている。	
ア 子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをしている。		○			
イ けんかの場面では、危険のないように注意しながら、子どもたち同士で解決するように援助している。		○			
ウ 順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。		○			
エ 当番活動などが日常生活の中で行われている。		○			
オ 異年齢の子どもとの交流が行われている。		○			
(21) 子どもの人権に十分配慮すると共に、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	㉑	b	c	年間計画に人権研修を組み込み、計画通り実施し、復命によって職員間の共有を図っている。人権絵本の紹介コーナーがあり、園児や保護者が自然体で取り組んでいる。乳児クラスの排泄の着脱時にその様子が廊下や玄関から見える。	廊下や玄関から裸が見えないようについたてを立てるなどの工夫を期待する。
ア 子どもが、自分の意見を保育士など大人にはっきり言う事が出来るよう配慮している。		○			
イ 子どもが、他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。		○			
ウ 一人一人の子どもたちの生活習慣や文化、考え方などの違いを知り、それを尊重する心を育てよう努めている。		○			
エ 子どもの人権への配慮や互いを尊重する心を育てるための具体的な取り組みを行っている。		○			

オ 子どもの人権について正しい理解と認識を深めるため、必要な研修等に職員が参加し、その実践に務めている。	○		
カ 保護者に、子どもの権利擁護に関する情報(「子ども権利条約」「児童憲章」など)を提供し、啓発している。	○		人権教室、人権セミナー、園だより等で啓発を行っている。
(22) 性差への先入観による固定的な観念や性別役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	㉑	b	c
ア 「男の子だからめそめそするな」などと、子どもの態度について、性差への先入感による固定的な対応をしていない。	○		
イ 「それは女(男)の子の色」などと、子どもの服装などについて、性差への先入感による固定的な対応をしていない。	○		クラスでのグループ分け、朝の体操時のペア組みや5歳児の幼児の昼寝を促すとんとんなど性差を全く感じさせない姿が見られる。日ごろから男女の区別を感じさせない保育を実践している。
ウ 「それは女(男)の子の遊び」などと、子どもの遊び方について、性差への先入感による固定的な対応をしていない。	○		
エ 「男の子だから家事をすることはない」などと、育児、家事、介護などについて性差への先入観による固定的な対応をしていない。	○		
オ 「それは女(男)の子の仕事」などと、職業について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。	○		
(23) 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	㉑	b	c
ア 授乳は、子どもが欲しがる時に、抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。			
イ 離乳食については、家庭と連携を取りながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。	○		現在、授乳児はいない。離乳食は卒業しているが、保護者との連携は時間のとれるお迎え時に話し合っており、基本的には家庭で食している内容を保育園の献立にするようにしている。
ウ おむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップを取りながら行っている。	○		外気に触れる機会はベビーカーでテラスや廊下を歩いて異年齢の子どもとふれあう機会を設けている。
エ 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。	○		SIDS確認表でチェックして対応している。
オ 外気に触れたり、外遊びを行う機会を設けている。	○		特定の保育士との継続的な関わりが保てるようにしている
カ 喃語には、ゆったりとやさしく応えている。	○		が、1:1でなく全保育士のかかわりが保てるようにも配慮している。
キ 顔を見合ってあやしたり、乳児とのやりとりや、触れ合い遊びを行っている。			手作りおやつの際には給食室へ「ごちそうさま」の挨拶に行っている。
ク たて抱き、腹這いなど、子どもの姿勢を変えている。	○		
ケ 寝返りのできない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせている。	○		
コ 特定の保育士との継続的な関わりが保てるように配慮している。	○		
(24) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a	㉑	c
ア 家庭的な雰囲気が感じられる。	○		多くの園児(130人余中約100人)が長時間保育を利用、人数が多く各クラスで過ごしている。17:00以降、以上児はなかよしルーム、未満児は0歳児の部屋へ集合、18:15以降は全員0歳児の部屋へ集合して過ごしている。
イ 好きなことをしてくつろげる空間や遊具がある。			お迎え時、職員と保護者との連絡や書類等の手渡しに混乱がみられる。
ウ 長時間にわたり保育を受ける子どもに夕食や軽食が提供されている。			引継簿は特記事項を記入して迎え時に保護者に連絡しているが、確認が明示されていない。
エ 一人一人の子どもの要求に応じて、抱いたり声をかけるなど、ゆったりと接している。	○		
オ 異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されている。	○		
カ 子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っている。			
キ 長時間にわたる保育のための適切な職員配置がなされている。	○		

乳児とのやり取りで、顔を見合ってあやす場面が少ないのが残念で、声を発せない乳児に対しての接し方を考慮・検討して欲しい。

約束事を明確に(保育室の中でのみ連絡・確認、保育士は外に出ない等)する工夫が欲しい。引継簿に、連絡の時刻と担当名が解るようにして、漏れのない工夫をして欲しい。

(25) 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	㉔	b	c	特別支援教育年間計画を基に、特別支援教育コーディネーターと担当保育士を中心に園内委員会を毎月開催し、個別の指導計画を見直している。児童票に詳細に保護者の思いなどを記載し、担当保育士と他職員は共有して保育に活かしている。 市のたんぼ教室、幼児ことばの教室と連携、相互の利用、個人ごとの対応を検討し、検討結果を保護者と共有している。そこで得た絵カードを難聴児に利用している。 年初と違い園児の関わりが徐々に自然化し、障害児とも違和感なく友達同士として寄り添う姿がみられる。園庭と保育室間に、1ヶ所のスロープがあるのみで、そこ以外はすべて段差がある。	肢体の不自由な子どもを預かる場合の課題であり、段差解消を検討して欲しい。
ア 障害のない子どもの、障害児への関わりに対して配慮している。		○			
イ 園舎はバリアフリーの配慮がみられる。					
ウ 障害のある子ども一人一人に合わせた園での生活の仕方の個別指導計画が立てられている。		○			
エ 障害児保育について保育所全体で定期的に話し合う機会を設けている。		○			
オ 障害児保育に携わる者は、障害児保育に関する研修を受けている。		○			
カ 医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。		○			
キ 保護者に、障害児に関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。		○			
ク 障害のある子もいない子も、互いの良さを感じとり楽しく交流している。		○			
ケ 障害のある子の保護者の思いを受けとめ、配慮している。		○			
II. 子育て支援					
1 入所児童の保護者の育児支援					
(1) 一人一人の保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	㉔	b	c	個別面談や日々の送迎時の懇談から、保護者の願いや思いを聞き取って児童票に記録している。園評価アンケートの実施、保護者総会、クラス別懇談会、保育参加を実施し共通理解に努めている。 虐待の疑いがある時の園内連絡・対応体制を整備し、家庭児童相談室をはじめ地域包括支援センターとも連携協力している。	
(2) 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	㉔	b	c		
(3) 子どもの発達や育児などについて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	㉔	b	c		
(4) 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっている。	㉔	b	c		
(5) 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所(子ども家庭相談センター)や家庭児童相談室(子ども家庭相談室)などの関係機関に照会通告を行う体制が整っている。	㉔	b	c		
2 多様な子育てニーズへの対応					
(6) 多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行いそれを事業に反映している。	㉔	b	c	短時部、中時部、長時部、土曜保育をニーズに合わせて実施している。保育園と幼稚園との相互移園にも相談に乗っている。	
3 地域の子育て支援					
(7) 育児相談などの地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	a	㉔	c	地域子育て支援担当者会議で家庭内保育の親子を支援し、きらきらひろばでミニ運動会を開いている。園児の保護者の育児相談に個室の厚生室を設け対処している。電話やメールでの相談窓口を開いている。市や児童館、コミュニティーセンターなどの広報誌を園に掲示している。 地域の子育て家庭の親子と園との連携・交流が十分でない。 家庭児童相談室と連携して取り組んでいる。	地域の子育て家庭の親子との連携・交流を増やして欲しい。
ア 電話やファックスなどによる子育て相談を行っている。		○			
イ 来園による子育て相談を行っている。		○			
ウ 育児情報の提供を行っている。		○			
エ 地域の子育て家庭の親子が定期的に集まる機会を設けている。					
オ 地域の子育て家庭の親子と園に通っている親子が交流する機会を設けている。					
カ 地域の母子保健活動と連携した取り組みを行っている。		○			
(8) 一時預かりは、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	a	b	㉔	市の方針のもと、一時預かりは実施していない。	市当局と相談し、地域の一時保育の要望に応えられるよう、その実現に向け引き続き努力して欲しい。
ア 一時預かりのための保育室などの確保に配慮している。					
イ 一時預かりのための担当者が決められている。					
ウ 一人一人の子どもの日々の状態を把握している。					
エ 保護者とのコミュニケーションを十分にとっている。					
オ 一時預かりの子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。					

Ⅲ. 地域の住民や関係機関等との連携		近隣のコミュニセンター、小学校、幼稚園、学童保育所、児童館と連携した6者会議を毎月開催し、情報交換、災害時の避難場所の検討、不審者対応訓練の検討等が行われている。	
1 地域の住民や関係機関・団体との連携			
(1) 保育所の役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、それを職員が共有している。	<input checked="" type="radio"/> a b c	スマイルキッズ(幼・保で3、4、5歳児)と民生委員が参加し交流している。	
(2) 子どもの健康状態について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている。	<input checked="" type="radio"/> a b c	親子ふれあいの会では、川辺運動公園で楽しいひと時を過ごす等して、内容はたよりを発行し情報を共有している。	
(3) 育児相談などに際して、児童相談所(子ども家庭相談センター)や家庭児童相談室(子ども家庭相談室)などの専門機関に相談や連携ができる体制になっている。	<input checked="" type="radio"/> a b c	常駐看護師が園児の医療機関との連携体制を取っている。「はるたっこ子育て会議」で地域代表と保護者代表、教育関係代表(学童保育所、治田児童館)で、検討会議を開いている。	
(4) 小学校との間で小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がある。	<input checked="" type="radio"/> a b c	「ここにこ広場」は未就児親子の交流を支援して年4回実施している。	
(5) 区域担当の児童委員(民生委員)や主任児童委員、自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。	<input checked="" type="radio"/> a b c	幼保小交流(5・5)、小学校体験入学を実施している。民生・児童委員へ園の状況を、毎月開催される民生児童委員会の会議に参加し報告している。	
(6) 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。	<input checked="" type="radio"/> a b c	園児は地域の畑での栽培に親しみ、虫探しをしている。近隣の方が季節の花を持参してくれる。	
(7) 中高生などの保育体験を受け入れるにあたり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	<input checked="" type="radio"/> a b c	中学生の受け入れは「地域の子どもは地域で育てる」を目標に、保育の楽しさ、厳しさ、やりがい、を体験してもらうよう努めている。	
2 実習・ボランティア			
(8) 実習生を受け入れるにあたっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。	<input checked="" type="radio"/> a b c	実習生受入マニュアルを基に、看護学校、大学、短期大学の実習生を受け入れ、主任が担当して対応している。実習生の言動が保育に支障をきたすような場合や、あいさつのできない実習生に注意指導したこともあり、本人は納得し改め、感謝している。これらの事項は、園職員の自省・自戒に活かしている。	
ア 実習生を受け入れるにあたり、保育目標や保育の実態、子どもの発達について説明している。	<input type="radio"/>		
イ 子どもへの関わり方を適切に指導している。	<input type="radio"/>		
ウ 実習生の言動が保育に支障をきたすときは、はっきりと気付かせ、改めさせる指導の努力をしている。	<input type="radio"/>		
エ 実習生の感想・意見から園側は学ぼうとしている。	<input type="radio"/>		
(9) ボランティアを受け入れるにあたっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され受け入れの担当者も決められている。	<input type="radio"/> a <input checked="" type="radio"/> b c	市の方針によりボランティアの受け入れはしていない。(近隣の方が好意でバケツ稲作の指導、遊具の運搬車、野菜の副え棚、藤棚などを作ってくれたり、園庭の木々の剪定に来てくれたり、地域の人が手品をしに来てくれたりして、園児を楽しませてくれている。)	
ア ボランティアを受け入れるにあたり、保育の実態や子どもの発達について説明している。	<input type="radio"/>		公式なボランティア受入体制を構築して、現在協力を得ているボランティアの不測の事故に備えられるよう、さらに地域のボランティア受け入れを実現するために、ボランティアマニュアル作成を、市に働きかけて欲しい。
イ さまざまなボランティアの形を探り、子どもたちに多様な出会いや学びの場を与えようとしている。	<input type="radio"/>		
ウ ボランティアの感想・意見から園側は学ぼうとしている。	<input type="radio"/>		

IV. 運営管理				
1 基本方針				
(1) 保育課程を編成し、保育理念及び基本方針を明文化している。	Ⓐ	b	c	市の管理全体計画を受けて、保育園経営管理計画を作成し、方針、保育目標を明記している。これを園内研修、園内委員会などで職員全員に周知徹底を図っている。
(2) 保育理念や基本方針を職員、保護者、関係者に周知するための取り組みを行っている。	Ⓐ	b	c	
2 組織運営				
(3) 保育の質の向上や改善のための取り組みを、職員参加により行っている。	Ⓐ	b	c	幼稚園との研修による多様経験や、園内研修で保育の質向上に努めている。
(4) 保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている。	Ⓐ	b	c	
(5) 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	Ⓐ	b	c	園務分掌で、保育、園務、渉外の担当を決めて、園児の記録、安全、子育て支援などを記録し共有している。
(6) 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	Ⓐ	b	c	
(7) 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	Ⓐ	b	c	転園、退園時には、市の規定に基づき、保護者の依頼・了解に限り、情報提供に協力している。
(8) 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	Ⓐ	b	c	
(9) サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	Ⓐ	b	c	年間計画に沿い、受修し朝礼や関係会議で復命し共有している。
(10) 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	Ⓐ	b	c	
(11) 職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	Ⓐ	b	c	
3 守秘義務の順守				
(12) 守秘義務の遵守を周知している。	Ⓐ	b	c	市の服務規程、勤務マニュアルを遵守し、実習生や他の受入者にも宣誓書を取る等、守秘義務の順守に努めている。
4 情報提供・保護者の意見の反映				
(13) 情報提供にあたって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	Ⓐ	b	c	廊下や通路など園内に保護者向け情報を掲示している。園だよりを、関係機関に配布している。
ア 園だより、クラスだより等を配布している。		○		
イ 園の掲示等による保護者への情報提供について、わかりやすく伝える工夫が見られる。		○		地域や関係機関に「園便り」などを配布し、栗東市HPでも園の状況を開示している。
ウ パンフレットや要覧等を園児の保護者以外にも配布している。		○		
エ 園外向けの掲示板やポスター等で、園の様子や行事などについて、地域の人に見てもらえるようにしている。		○		保護者アンケートを実施し、個別懇談、クラス懇談、保護者会で保護者の意見要望を汲み取って、職員会議などで検討し、保育に活かせるように努めている。
オ ホームページや情報誌など誰もが容易に入手できる形態の広報媒体がある。		○		
カ 園の運営状況等についての情報を求めに応じて公開できるようにしている。		○		園内にも苦情受付を掲示している。
(14) 保育の実施にあたり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	Ⓐ	b	c	
(15) 苦情申し立てについての体制ができており、周知されている。	Ⓐ	b	c	
5 安全・衛生管理				
(16) 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備され機能している。	Ⓐ	b	c	危機管理マニュアル、保健業務マニュアルなどを整備し、連絡・処置などの体制を組織し対応している。老朽化している施設であるが、耐震化処置を施している。会議で関係マニュアルの読み合わせをして習熟に努めている。
(17) 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	Ⓐ	b	c	生活、交通、災害などの安全計画のもと、マニュアルに基づき、避難訓練、引き渡し訓練、遊具安全点検を実施している。AEDを配置して保育士も使用できるようにしている。
(18) 事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	Ⓐ	b	c	
(19) 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	Ⓐ	b	c	
(20) 調理場、水回りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	Ⓐ	b	c	

園外向け掲示板が見られない。近隣住民との関係にも、より工夫・配慮して欲しい。